

# 緑化通信

2020  
2月25日  
(年7回25日発行)  
第478号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階  
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577  
URL: http://www.ueki.or.jp/  
E-mail: honbu@ueki.or.jp



購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

## 創立50周年記念全国大会

令和2年1月22日(水) ホテルグランドアーク半蔵門(東京都千代田区)

### 大会宣言

一般社団法人日本植木協会は創立50周年を迎える。この間、優れた緑化樹木の生産・安定的な流通体制を構築し、緑化樹木による憩いの場や潤いの提供に努めてきた。しかし、近年、緑の減少による地球的規模での温暖化や都市部におけるヒートアイランド現象が顕著なものとなり、私たちを取り巻く生活環境に大きな影響を与えている。このような状況を踏まえ、緑豊かで安心して生活できる社会を継承するため、次代を担う子供たちに「緑育出前授業」などを通じ、緑が地球上の生命根幹であり、緑化が国民生活にとって不可欠であることを教えるとともに、緑化推進の更なる活性化を図り諸活動を活発に展開し、緑あふれる輝く未来に向かって大きく躍進することをここに宣言する。

一般社団法人日本植木協会  
創立50周年記念全国大会

### 創立50周年記念全国大会会長挨拶



宍倉孝行会長

皆様、あけましておめでとうございます。本日、林野庁長官、国土交通省都市局長、環境省自然環境局長、有村治子参議院議員をはじめ、関連団体からのご来賓、多くの会員の皆様をお迎えして、一般社団法人日本植木協会創立50周年記念全国大会を開催できること心より感謝申し上げます。皆様には、平素より植木協会の活動・事業に対し多大なるご協力を賜っていること、この場を借りてお礼申し上げます。

さて協会は、昭和46年に大阪で創立され50年を迎えることになりました。この間、国土緑化のための樹木生産・流通や普及啓発に努めて参りました。しかし、植木業界を巡る状況は、バブル崩壊やリーマンショックなど社会情勢の変化にともない、植木の需要が減少してきており大変厳しいものがあります。

また、協会は平成25年に社団法人から一般社団法人に移行し、公益目的事業にも力を注いでまいりました。公益目的事業では、次代を担う子供たちにみどりの大切さを教える「緑育出前授業」や「記念樹贈呈事業」を行う普及啓発事業と人材を育成するための「環境緑化樹木識別のポイント講習会」や「植生アドバイザー育成講座」を実施してきました。これら事業は、広く浸透しつつあり、特に環境緑化樹木識別試験において中学生が大人顔負けの高得点を獲得するなど成果を上げて来ています。

地球温暖化も大きな問題となっています。温暖化の原因の一つとされる二酸化炭素の増加についても地球規模での樹木の減少に伴うことが原因と予想されています。昨年、一昨年と気候変動によるものと思われる大規模な災害も地球温暖化に端を発しているのではと言われるものがあります。これからの問題を解消し、次世代を担う子供たちが安心して生活できる環境づくりをするためにも、これまでも増して安定的な緑化樹木生産・流通に努めるとともに、近年、脚光を浴びている地域性苗木についての生産にも力を注いでいく必要性も感じています。

協会としては、消費者ニーズを充分把握し、もれまでも増して安定的な生産・流通体制を確立して参る所存であります。本日の大会開催にしましては、関東・甲信越ブロックの皆様には、一方ならぬ協力を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。結び、本大会にご参加いただいた、ご来賓と会員の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念申し上げ、挨拶といたします。

本日は、ありがとうございます。

15時30分からホテルグランドアーク半蔵門 華の間において創立50周年記念全国大会が開催された。

秋山富士雄副会長の開会の辞で開幕し、宍倉孝行大会会長の挨拶、鶴沢栄関東・甲信越ブロックの歓迎挨拶に続き、ご来賓の本郷浩二林野庁長官、国土交通省都市局長(長井俊彦大臣官房審議官代読)、鳥居敏男環境省自然環境局長からご祝辞を頂いたのち、協会顧問の有村治子参議院議員から緑化は三大行啓の一つです。今、緑化は大きな課題となっています。机上の対話では現場の状況が見えませんが、現場での対話を通じてよい政策につなげていきたいとのお祝いのお言葉を頂いたのち、ご臨席された多くのご来賓の紹介が行われた。

次に、感謝状と認定証の授与が行われた。感謝状は、農林水産大臣感謝状(協会本部役員を10年以上務めた者)2点と林野庁長官感謝状(本部役員を6年以上

務めた者)3点が本郷林野庁長官より授与された。また環境省 鳥居自然環境局長から緑の大切さを普及する活動に対して感謝状が協会に授与された。

認定証は、卓越技能者16人と優秀技能者13人に本郷会長から授与された。引き続き、大会宣言が阪上



本郷林野庁長官



長井国交省大臣官房審議官



鳥居環境省自然環境局長



協会顧問の参議院議員 有村治子先生



大会宣言する阪上和彦副会長

### 創立50周年記念感謝状

#### 農林水産大臣感謝状

- 宍倉 孝行 (有)グリーンシシクラ
- 秋山富士雄 (有)あすま緑化園

#### 林野庁長官感謝状

- 植島 清春 (有)植島植木
- 阪上 和彦 (有)作樹園
- 船橋 修一 (有)船橋緑化

#### 環境省自然環境局長感謝状

- (一社) 日本植木協会



鳥居自然環境局長から感謝状を授与される荒井秀史緑育委員



本郷林野庁長官から林野庁長官賞を授与される船橋修一氏



本郷林野庁長官から農林水産大臣賞を授与される秋山富士夫氏

### 記念講演

涌井史郎(雅之)氏  
「グリーンインフラが創り出す  
新たな社会」

記念講演は、株式会社涌井史郎(雅之)氏が「グリーンインフラが創り出す新たな社会」をテーマに講演された。井景観研究所の涌井史郎(雅之)氏が「グリーンインフラが創り出す新たな社会」をテーマに講演された。井景観研究所の涌井史郎(雅之)氏が「グリーンインフラが創り出す新たな社会」をテーマに講演された。



講演会場は満席となり、気の高さがうかがわれた。都市部における造園事業は増えてきており、需要動向を把握しながら植木生産を図っていくことが重要であるなど非常に参考になる講演であった。

### 令和2年度通常総会



〔総会前理事会〕  
通常総会の開会に先立ち、総会運営の確認等を行うため正副議長との打合せ及び総会前理事会を開催した。出席者は、三役、理事、正・副議長、議事録署名人、関東・甲信越ブロック長及び事務局。令和2年度通常総会及び創立50周年記念全国大会への対応、役割分担等について打ち合わせを行い、円滑な総会・大会の運営を図ることとした。

〔総会前理事会〕  
通常総会の開会に先立ち、総会運営の確認等を行うため正副議長との打合せ及び総会前理事会を開催した。出席者は、三役、理事、正・副議長、議事録署名人、関東・甲信越ブロック長及び事務局。令和2年度通常総会及び創立50周年記念全国大会への対応、役割分担等について打ち合わせを行い、円滑な総会・大会の運営を図ることとした。

ら定数の確認が行われ、本人出席174名、委任状138名、計312名で総会が成立したことを報告した後、秋山富士雄副会長の開会の辞で開幕した。

はじめに、平成31年度にご逝去された会員の冥福をお祈りし黙祷を捧げた後、穴倉孝行会長に挨拶を頂いた。

引き続き、協会会長表彰が行なわれ、穴倉会長から、退任される理事・監事、ブロック長及び支部長に役職功労者表彰、従業員永年勤続表彰3名に対して感謝状と記念品が授与された。また、特別庭園樹木(名木)認定3点に認定証が授与された。(表彰者等については別掲)

議長には、議長に清水宣昭氏(有清水種苗/埼玉県)、副議長に畠山富夫氏(株山種苗園/新潟県)と飯島裕之氏(大和園/神奈川県)、議事録署名人には宇津木浩幸氏(株宇津木農場/千葉県)、外塚潔氏(株外塚農園/茨城県)が指名された。

議長は、第1号議案「平成31年度事業報告」と第2号議案「平成31年度決算報告及び監査報告」は関連していることから併せて審議を行うこととして、事務局に説明を求めた。事務局から第1号議案と第2号議案についての説明があり、公益目的事業については、平成31年11月30日をもって完了する予定であったが、平成30年度末における公益目的財産残額が1513万円あり、年度内での執行が難しいと考えられることから、内閣府に公益目的実施期間の1年間の延長を申請し協議を重ねた結果、11月8日付けで認可され令和2年11月30日まで期間延長した。なお、令和2年の公益目的財産額は623万円となっているとの報告がされた。事務局説明の後、荒井利昌監事から平成31年度事業及び決算は適正に処理されており、経費の使途も正当であったとの監査報告がなされた。議長は、説明を受け議場に諮ったところ、特に意見も無く賛成多数で承認された。

第3号議案「平成31年度事業計画(案)」と第4号議案「平成31年度収支予算(案)」についても併せて審議することから併せて審議することとした。議長は、議案を説明し提案した。議長は、議案を説明し提案した。議長は、議案を説明し提案した。

議長は、議案を説明し提案した。議長は、議案を説明し提案した。議長は、議案を説明し提案した。議長は、議案を説明し提案した。

### 意見交換会



協会顧問自由民主党元幹事長古賀誠先生



(一社)日本造園建設業協会 和田新也会長



協会顧問 衆議院議員 藤丸敏先生

意見交換会は、華の間に於いて開催され、鶴沢栄関東・甲信越ブロック長の開会挨拶に続き、穴倉孝行大会会長の挨拶、顧問の自由民主党元幹事長古賀誠先生、衆議院議員藤丸敏先生に挨拶を頂いたのち、古賀先生のご紹介があり、一般社団法人造園建設業協会和田新也会長の音頭で乾杯が行われ、懇談・懇親の宴に入った。全国各地からの会員とご来賓の方々と懇談や互いの歓談を通して大いに盛り上がり、宴たけなわの中に、高橋英治副ブロック長の中締めで宴がお開きとなった。



議長は、第1号議案「平成31年度事業報告」と第2号議案「平成31年度決算報告及び監査報告」は関連していることから併せて審議を行うこととして、事務局に説明を求めた。事務局から第1号議案と第2号議案についての説明があり、公益目的事業については、平成31年11月30日をもって完了する予定であったが、平成30年度末における公益目的財産残額が1513万円あり、年度内での執行が難しいと考えられることから、内閣府に公益目的実施期間の1年間の延長を申請し協議を重ねた結果、11月8日付けで認可され令和2年11月30日まで期間延長した。なお、令和2年の公益目的財産額は623万円となっているとの報告がされた。事務局説明の後、荒井利昌監事から平成31年度事業及び決算は適正に処理されており、経費の使途も正当であったとの監査報告がなされた。議長は、説明を受け議場に諮ったところ、特に意見も無く賛成多数で承認された。



左から畠山富夫副議長、清水宣昭議長、飯島裕之副議長

議長は、第1号議案「平成31年度事業報告」と第2号議案「平成31年度決算報告及び監査報告」は関連していることから併せて審議を行うこととして、事務局に説明を求めた。事務局から第1号議案と第2号議案についての説明があり、公益目的事業については、平成31年11月30日をもって完了する予定であったが、平成30年度末における公益目的財産残額が1513万円あり、年度内での執行が難しいと考えられることから、内閣府に公益目的実施期間の1年間の延長を申請し協議を重ねた結果、11月8日付けで認可され令和2年11月30日まで期間延長した。なお、令和2年の公益目的財産額は623万円となっているとの報告がされた。事務局説明の後、荒井利昌監事から平成31年度事業及び決算は適正に処理されており、経費の使途も正当であったとの監査報告がなされた。議長は、説明を受け議場に諮ったところ、特に意見も無く賛成多数で承認された。



質問をする豊岡敏則氏

は、説明を受け議場に諮ったところ、会員にとってメリットとなるような施策や事業活動を行うべきではないか。メリッとはないか。メリッとはないかとの意見が出された。他に意見が無かったことから、議長が裁決求めたところ、賛成多数で承認された。議長は、第5号議案「役員選任」について事務局に説明を求めた。事務局から役員選任の経緯を説明し、秋山富士雄役員推薦委員長から、理事を推挙する候補者4名と監事1名を選任したこと、各ブロックから12名の理事及び監事候補者となっていることが説明された。審議の結果、賛成多数で承認された。議長は、他に審議すべき議案の有無について会場に諮ったが意見がなかったことから提案された議案についてすべて終了したと宣言し、議長・副議長は退任した。

新役員体制

役職名	氏名	社園名	役職名	氏名	社園名
会長	宍倉 孝行	(有)グリーンシシクラ	理事	鶴飼 幸治	(有)鶴飼農園
副会長	菅原 豊	(株)みちのくビオトープ	〃	辰巳 広之	(株)辰巳植広園
〃	佐久 定規	(有)千代田緑地	〃	森本 泰好	(株)徳島県植物市場
〃	阪上 和彦	(有)作樹園	〃	古賀 晃	(有)大福
専務理事	佐藤 建一	事務局	〃	小平 純一	小平植木
理事	清水 宣昭	(有)清水種苗	監事	岡部 清	
〃	川口 健一	(有)川繁園	〃	足澤 匡	小岩井農牧(株)
〃	横田 豊	(有)横田園	〃	高橋 一男	大塚緑化
〃	村田 利博	(株)レコムグリーン			

卓越技能者(名人)

	県	氏名	社園名	分類
1	埼玉	笠原 信男	笠原園芸	育種・繁殖技術
2	〃	長島 芳雄	(有)安行盛農園	造形仕立技術
3	〃	矢作 勇	神根葡萄園	育種・繁殖技術
4	東京	須崎 久夫	(有)須崎樹苗	育成管理技術
5	〃	原島 春男	原島園	育種・繁殖技術
6	神奈川	尾上 信行	尾上園	植物分類知識
7	〃	高橋 源一	(有)小田原植木	造形仕立技術
8	新潟	畠山 富夫	(株)畠山種苗園	育種・繁殖技術
9	愛知	八木 峰夫	(株)千代田農園	育成管理技術
10	三重	鶴飼 智	(有)鶴飼農園	育種・繁殖技術
11	滋賀	松居 隆地	松居農園(株)	育種・繁殖技術
12	大阪	古川 元一	古川庭樹園	育成管理技術
13	鳥取	田宮 義徳	(有)田宮園芸	育成管理技術
14	愛媛	丹下 幸雄	(株)瀬戸内園芸センター	育種・繁殖技術
15	福岡	古賀 隆博	(有)総合緑化コガキュー	育成管理技術
16	大分	清瀧 毅	(有)キヨタキナーセリー	育成管理技術

優秀技能者

	支部	氏名	社園名	分類	評価対象
1	埼玉	江原 章治	江原園	育成管理技術	コンテナ栽培植物に関する生産・管理技術
2	静岡	高村 八郎	若松園	育成管理技術	クロマツ、イヌマキ等苗木のコンテナ栽培技術に優れている
3	〃	竹内 好和	竹内園芸	造形仕立技術	イヌマキ、クロマツ等の造形仕立で全国屈指のトピアリー生産技術
4	愛知	大崎 光和	(農)グリーンステーション和樹	育成管理技術	生産繁殖技術に優れ、特に挿し木の技術について、指導的立場
5	〃	太田 道雄	(有)グリーンファームオオタ	育成管理技術	コンテナ生産技術に広い知識を有し、指導的な立場にある
6	〃	黒田 好哉	(有)美好緑化	育成管理技術	実生、挿し木による繁殖、育成管理技術に優れている
7	大坂	溝口 勝夫	(株)幽芳園	生産・流通	地域特性にあった樹木の流通に精通している
8	兵庫	阪上 和彦	(有)作樹園	生産・流通	地域特性にあった樹木の流通に精通している
9	和歌山	阪中 晃	阪中緑化樹生産センター	生産・流通	品質の良い低木・中木の生産・流通に優れている
10	福岡	田島 尚登	田島園芸場	育成管理技術	平戸の育苗・育成技術に優れている
11	熊本	豊岡 敏則	(有)豊岡晃樹園	育成管理技術	連作障害を防ぐための土壌管理・栽培技術に優れている
12	大分	酒見 修身	(有)酒見緑化園	育成管理技術	山採り大径木の移植、育成・管理に優れている
13	鹿児島	名ヶ迫 操	(有)豊南開発	育成管理技術	常緑樹苗木から大径木の剪定技術に優れている

一般社団法人 日本植木協会会長表彰等

役職功勞表彰

(理事退任)

- 〇秋山 富士雄 (有)あすま緑化園 埼玉県
- 〇森田 善朗 パードグリーン 岐阜県
- 〇溝口 勝夫 (株)幽芳園 大阪府
- 〇牛嶋 克典 第一滴翠園 福岡県
- 〇船橋 修一 (有)船橋緑化 鹿児島県

(監事退任)

- 〇荒井 利昌 荒井苗木園 茨城県
- 〇加藤 一巳 (有)辰巳園 鳥取県
- 〇西坂 哲紀 (株)大西屋 愛媛県

(ブロック長退任)

- 〇清水 宣昭 (有)清水種苗 埼玉県
- 〇黒田 晴彦 (有)美好緑化 愛知県
- 〇辰巳 広之 (株)辰巳植広園 兵庫県
- 〇豊岡 敏則 (有)豊岡晃樹園 熊本県

(支部長退任)

- 〇高橋 英治 (有)大一緑化 埼玉県
- 〇宇津木 浩幸 (株)宇津木農場 千葉県
- 〇石井 新次 石井農園 神奈川県
- 〇百瀬 直明 (有)百瀬苗圃 長野県
- 〇橋本 幸夫 橋本園芸 愛知県
- 〇湯浅 浩海 (有)湯浅養生園 三重県
- 〇東 能寛 (有)舞鶴種苗園 京都府
- 〇山本 茂三 (株)フタバ園 大阪府
- 〇奈良県花き植木農業協同組合 奈良県花き植木農業協同組合 奈良県
- 〇阪中 晃 阪中緑化樹生産センター 和歌山県
- 〇野村 行雄 G.C.K.農園 島根県
- 〇梶村 和男 (有)カジムラファーム 福岡県
- 〇白石 公則 (株)南阿蘇緑化 熊本県
- 〇有村 健二郎 (株)有村 Green 鹿児島県

従業員永年勤続表彰

- 〇森田 好裕 (有)足立農園 埼玉県
- 〇堀 哲治 (株)テラヤマ 埼玉県

特別庭園樹木(名木)

- 〇古賀 一生 (有)フクダイ種苗園 福岡県朝倉市 イヌマキ
- 〇今村 哲二 今村大華園 福岡県久留米市 イヌマキ
- 〇川津 富夫 川津園芸 福岡県久留米市 シダレ梅



理事・監事退任



ブロック長退任

コンテナ農場(100万本生産)



コンテナ農場



オリーブ



カンツバキ赤花と白花

(株)瀬戸内園芸センター



愛媛県今治市旦甲 248-1 TEL 0898-48-0010(代) FAX 0898-48-8187  
<http://www.setoen.com/> E-mail: setouchi@setoen.com

主な生産物

- クロマツ コニファー類 ヤシ類
- カシ類 クスノキ タブノキ
- モチノキ ウバメガシ オリーブ
- カクレミノ クロガネモチ
- サンゴジュ シマトネリコ
- マテバシイ ヤブツバキ ヤマモモ
- レッドロビン オウゴンマサキ
- カンツバキ(赤花と白花) サザンカ
- シャリンバイ ツツジ類 トペラ
- ハマヒサカキ ヒサカキ ミカン類
- サクラ類 イロハモミジ ハナモモなど

# コンテナ部会 令和2年度通常総会

## 本植木協会コンテナ部会 令和2年度通常総会



六倉孝行会長

令和2年度コンテナ部会通常総会は1月23日(木)9時より、砂防会館3階立山で開催されました。部会員30名の出席を得て、司会の田中晴晃幹事の開会宣言により総会が進行しました。

先ず、吉澤信行部会長が挨拶に立ち、令和新时代に入り、コンテナ部会の求められる役割の一つとして、植木業界の生産者・需要者に役立つ情報をスムーズに提供することに注力したいと話されました。

次に来賓として、六倉孝行植木協会会長が挨拶され、厳しい緑化業界にあって一部のパテント品種は公共工事の使用頻度が高まるなど変化が見られる。コンテナ部会員はこうした流れを生産・販売に活かして

【総会議事】  
議事に先立ち、司会から議長選出を出席者に諮ったところ、「司会者一任」の声により、新潟県支部の株式会社山田種苗園の山田富夫氏が指名され、承認され

議長は議事録署名人の選出を出席者に諮ったところ、「議長一任」の声により、有限会社森川園芸の森川雅広氏と有限会社丸八種苗園の上条祐一郎氏を指名し、出席者から承認を得ました。



議長は第1号議案と第2号議案について出席者に諮ったところ、意見等はなく、賛成の拍手で第3号議案と第4号議案は一括で承認されました。

【記念講演】  
10時30分より公益財団法人日本花の会 主幹研究員 和田博幸氏による「桜の現状とこれから」について講演が行われました。

和田氏は先ず、(公財)日本花の会が全国の住民団体に桜の苗木を提供して「桜の名所づくり」を支援していること、花や緑の美しい景観を育む「全国花のまちづくりコンクール」を共催実施していること、桜の樹勢回復・保全活動を進めていることを紹介しました。

桜は日当たりが良く、水はけが良く適度な湿度のある土壌を好み、成長が早いのが特徴で寿命30~40年が樹勢のピークと言われます。和田氏は樹勢が衰えてきた時にどのように管理するかが重要であると説きました。また、ソメイヨシノはてんぐ栗病に罹りやすいので植栽間隔を空けることや密生時には剪定をしっかりと行うことが予防になると話されました。

和田氏は桜を取り巻く環境課題として、①樹齢を重ねるごとに成長が遅くなる切りとなり。②緑育出前授業は昨年21回開催し、2321名のご参加をいただきました。本年度も全国各地において、「みどり」植木の大切さをお伝えできるように努めてまいります。

議長は第1号議案と第2号議案について出席者に諮ったところ、意見等はなく、賛成の拍手で第1号議案と第2号議案は一括で承認されました。

議長は第5号議案について出席者に諮ったところ、意見等はなく、賛成の拍手で第5号議案は承認されました。その後、新役員は三役を互選し、会場出席者は新体制を拍手で承認しました。

【総務報告】  
12時30分より総会会場でコンテナ部会役員、担当理事、協力会3社の総勢18名が参加して懇談会が開催されました。

最後に吉澤部会長の謝辞で講演会は終了しました。

今後の情報発信をしっかりと行い、委員の方々と全力で取り組んでまいります。日本植木協会のPR、発展のため委員の皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

この度、調査・研究委員会を担う佐久定規です。

佐久定規 委員長  
(有)千代田緑地・茨城県

### 令和2年度 各専門委員会等の委員長 抱負を語る



総務企画委員会 委員長  
六倉孝行  
(有)グリーンシシクラ・埼玉県

令和2年度通常総会において会長を拝命し、引き続き、総務・企画委員を担うことになる予定です。皆様には、平素より協会活動事業に対しご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、協会の現状をみまき、植木需要の停滞はもたらしている。委員の減少が続いており財政的に大変厳しい状況にあります。総務・企画委員会は、このような状況

況を払拭し、協会の屋台骨を構築していくことが大きな使命と思っています。これまで、ビジョン検討委員会等を通じてこれら問題点について色々と検討してきましたが、具体的な解決策が打ち出せなかったのが現実であります。これらを反省点として、会員のメリットとなるような施策や事業を創造するための積極的な活動してまいります。

この度、広報・普及委員長を務めさせていただきます。日頃より当委員会の事業に対しまして、ご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。広報・普及委員会は緑化通信の発行・ホームページの

管理・日本列島植物園の運営、その他広報事業等を中心に活動してまいります。緑化通信は、会員はもちろんのこと、多くの皆様方に読んで頂くよう、昨年に引き続き明るく読みやすいレイアウトを心がけてまいります。

公益目的支出計画事業は今年度末をもって一応一区切りとなります。緑育出前授業は昨年21回開催し、2321名のご参加をいただきました。本年度も全国各地において、「みどり」植木の大切さをお伝えできるように努めてまいります。

今後情報発信をしっかりと行い、委員の方々と全力で取り組んでまいります。日本植木協会のPR、発展のため委員の皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

次ページへ続く

はなはだ未熟ではござい  
ますが、ご指導・鞭撻のほ  
ど宜しくお願いいたしま  
す。

会員の皆様方には日頃よ  
り協会運営につきまして、  
ご理解・ご協力を賜り厚く  
御礼申し上げます。

現代社会において、地球  
温暖化の問題は今後の大き  
な課題で、昨年は日本に大  
型台風が立て続けて3件も  
上陸し、尚且つ甚大な被害  
をもたらす、日本がまるで  
亜熱帯地域にでもなったか  
のような異常気象が見ら  
れ、今後地域や都市環境の  
改善にとって、緑・植物あ  
り方が重要視されていま  
す。

また、当協会は現在、会  
員数の減少やそれに伴う会  
費収入の伸び悩み、後継者  
不足、緑化関連事業の縮  
小・関連予算の緊縮化  
等々、大変厳しい環境に直  
面しております。

しかしながら、私たちの  
植木や緑化に関する産業  
は最も必要な分野です。

今後、行政の力と民間の  
活力を共に生かし活性化し  
ていく方法を講じることに  
、関連各団体や関係機関  
と情報を密にし、住環境改  
善に貢献することは協会の  
大きな使命であり、大切な  
役割であると思われま

調査研究委員会として  
は、具体的な需要に対応す  
るため、正確な都道府県別  
供給可能量調査を実施し、  
より的確な生産体制と供給  
体制を構築していく事を目  
的としています。同時に社  
團別生産数量調査を推進し

てまいります。  
設計・コンサルタント関  
係業界の皆様と情報共有化  
を図り、「建設物価」・「積  
算資料」へ情報提供と要望  
を行ってまいります。

また、昨年度より会員限  
定でホームページから社団  
別生産数量がアクセス出来  
る様になり、会員同士の売  
買のツールとして活用させ  
ています。

地域性植物適用関係につ  
いて、母樹の採取場所・生  
産地等の記録を明確にした  
トレーサビリティによる生  
産ルールを決め、地域性苗  
木の普及とPRに努めま  
す。又、本協会は地域性苗  
木のご指導・鞭撻をお  
願ひ申し上げます。

この度、研修・資格委員  
会を担当することになりま  
した菅原 豊です。会員の  
皆様方には日頃より協会事  
業にご理解とご協力を賜り  
厚く御礼申し上げます。



研修・資格委員会 委員長  
菅原 豊  
(柳みちのくビオトープ・岩手県)

木の生産団体であり受注生  
産が出来ることを積極的に  
PRしていく、地域性苗木  
の生産体制の強化と販路拡  
大策策活動を行います。  
近年、石巻復興公園など

では東北ブロック会員の方  
のご尽力により、協会の知  
名度が上がったのは顕著に  
見えます。

今後、当協会は植木・造  
園業界の中長期的な展望を  
見据え、日本植木協会のあ  
るべき姿を描くと共に、協  
会員各社団の増収・増益の  
施策を講じていかなければ  
なりません。

皆様のご指導・鞭撻をお  
願ひ申し上げます。

この度、研修・資格委員  
会を担当することになりま  
した菅原 豊です。会員の  
皆様方には日頃より協会事  
業にご理解とご協力を賜り  
厚く御礼申し上げます。

さて、研修・資格委員会  
では「公益目的支出計画実  
施事業」と「研修事業」を  
担当しています。

公益目的支出計画実施事  
業では「環境緑化樹木識別  
検定、講習会」と「植生ア  
ドバイザー育成講座」、「植  
生管理士認定試験」の事業  
があり、協会員のみならず  
一般の方の参加も募ってい  
ます。特に樹木識別のポイ  
ント講習会は毎回盛況で多  
くの方が参加されていま  
す。

しかし、対外的な事業と  
してではなく、会員の方に  
参加していただきたい事業  
ですので、特に後継者の方  
には奮って参加してほしい  
と思います。「樹木を知っ  
てこそ植木屋」と呼ばれる  
ように樹木を知ることがこ  
の業界の基本だと思いま  
す。令和2年度も実施する  
予定ですのでよろしくお願  
ひいたします。

また、「公益目的支出計  
画実施事業」は当初計画で  
は令和2年度をもって終了  
いたします。公益目的事業  
が終了した後、これら事業  
の扱いについて、財源も含  
めてどのような方向に持っ  
ていくのか、皆様方と議  
論・検討をしなければなら  
ないと考えています。

研修事業では、各プロッ  
クへの研修費助成が財政難  
により少なくなり大変恐縮  
ではあります。今後とも  
意義のある研修会にして頂  
きますようよろしくお願いいたします。

なお、中央研修会はしば  
らく実施されていません  
が、皆様方のご意見を頂き  
ながら今後検討していきま  
す。



日本列島植木植物園運営委員会  
委員長  
古川 和生  
(古川庭樹園・大阪府)

日本列島植木植物園は全国に  
広がる植木協会の保有す  
る生産圃場を活用したオー  
プンナーリーであり、平  
成15年に活動を始め、現在  
70社園登録頂き活動してい  
ます。

将来的には全国に登録社  
園100社以上を目標とし、  
緑や自然に対する社会  
貢献、種の保存、ナシヨナ  
ルプランツコレクションの  
拡充、生産の獨創性等を目  
的としています。

日本列島は、南北に長  
く、太平洋と日本海に囲ま  
れ海岸から内陸部に至る立  
地差、多様な気候の下で広  
がる植物相も様々で全国各  
地の圃場には魅力や個性あ  
ふれる樹木が生産されてい  
ます。これらの圃場を一般  
公開することにより植物の  
魅力、癒しを知って頂き、  
植物が担う重要な役割ヒー  
トアイランド現象の阻止、  
地球環境問題の改善等を多  
くの方々に伝える事も我々  
の責務です。

昨年は石川委員長のもと  
と、岡山県、香川県方面の  
視察、研修で(株)清光園芸、  
栗林公園、(有)半田植物園、  
(株)山地緑化センター、神高  
松寿園(非会員)、「第13回  
みどり香るまちづくり」企  
画コンテストを受賞され  
た、番の州公園(敬称略)  
を訪問させて頂きました。

今後視察研修を通じ、会  
員、業界の皆様と交流を深  
め、情報発信して参りま  
す。

最後に会員の皆様方のご  
協力とご支援を心よりお願  
い申し上げますと共に、是  
非日本列島植木植物園にご参加  
下さいませ、お願い致し  
ます。

緑育は緑の啓発活動であ  
り、その結果、広く緑の重  
要性が理解され、植木の需  
要が増え緑化産業の活性化  
につながるという長期的な  
成長戦略です。短期間で結  
果が出るような事業ではな  
く、継続することによって  
結果が得られる事業です。

緑の重要性、植木の必要性  
を一人でも多くの方に理解  
してもらいたいという思い  
でこの活動を継続しており  
ます。またその緑育活動  
は、私たちにしても、我々  
の携わっているこの植木産  
業に自信と誇りを持ち従事  
していくということにもつ  
ながると思っています。

緑育は、緑の大切さ・素  
晴らしさを広く知ってもら  
うということであり、それ  
によって豊かな人間性や環  
境を創り出していくとい  
う公益性のある事業を団体  
として行うことに意義があ  
ります。緑化産業に携わる  
者の団体である(一社)日  
本植木協会の果たさなけれ  
ばならない社会的責任と  
して、今後も緑育活動を会  
員皆様とともに推進してい  
きます。

本年度もその目的を果た  
す事業を展開するために、  
委員の皆様と協議検討を進  
めてまいりますので、会員  
の皆様積極的なご協力、ご  
参加をよろしくお願ひいた  
します。

また、植木の流通はメー  
カーである生産者から施主  
の間に多くの業者が携わり  
ます。状況にもよりますが、  
現場によっては材料検査  
が必要になり、写真によ  
る検査の場合はそれほど  
もありませんが、現地農場  
での材料確認の場合、写真  
材検、下見材検、本材検と  
必要になる場合があり、こ  
の材料検査の費用がかさ  
み、卸業者の経費倒れにな  
る事も事実としてありま  
す。当初よりこういった費  
用を見たとの見積りであ  
れば問題の無い事でしょう  
が、競争入札の厳しい予算  
の中で無理をして請け負っ  
た仕事の費用負担は下請け  
に流れて行き、生産者に及  
びます。景気が悪いと言え  
ばそれまでですが、その繰  
り返しの中で植木の生産が  
少なくなり、協会会員の減  
少も歯止めが掛かりませ  
ん。かと言って残った業者  
が潤う状況でも無い様に感  
じます。これでは後継者が  
育たないのも仕方ない事な  
のかも知れません。あまり  
次ページへ続



緑育出前授業運営委員会  
委員長  
生駒 順  
(生駒植木園・神奈川県)

引き続き緑育出前授業実  
行委員会の委員長を務めさ  
せていただくことになりま  
す。皆さまのご支援を頂  
戴し、事業運営をしてまい  
りますのでどうぞよろしく  
お願ひいたします。

この委員会には発足当初  
から携わらせていただいで

緑育は緑の啓発活動であ  
り、その結果、広く緑の重  
要性が理解され、植木の需  
要が増え緑化産業の活性化  
につながるという長期的な  
成長戦略です。短期間で結  
果が出るような事業ではな  
く、継続することによって  
結果が得られる事業です。

緑の重要性、植木の必要性  
を一人でも多くの方に理解  
してもらいたいという思い  
でこの活動を継続しており  
ます。またその緑育活動  
は、私たちにしても、我々  
の携わっているこの植木産  
業に自信と誇りを持ち従事  
していくということにもつ  
ながると思っています。

緑育は、緑の大切さ・素  
晴らしさを広く知ってもら  
うということであり、それ  
によって豊かな人間性や環  
境を創り出していくとい  
う公益性のある事業を団体  
として行うことに意義があ  
ります。緑化産業に携わる  
者の団体である(一社)日  
本植木協会の果たさなけれ  
ばならない社会的責任と  
して、今後も緑育活動を会  
員皆様とともに推進してい  
きます。

本年度もその目的を果た  
す事業を展開するために、  
委員の皆様と協議検討を進  
めてまいりますので、会員  
の皆様積極的なご協力、ご  
参加をよろしくお願ひいた  
します。

また、植木の流通はメー  
カーである生産者から施主  
の間に多くの業者が携わり  
ます。状況にもよりますが、  
現場によっては材料検査  
が必要になり、写真によ  
る検査の場合はそれほど  
もありませんが、現地農場  
での材料確認の場合、写真  
材検、下見材検、本材検と  
必要になる場合があり、こ  
の材料検査の費用がかさ  
み、卸業者の経費倒れにな  
る事も事実としてありま  
す。当初よりこういった費  
用を見たとの見積りであ  
れば問題の無い事でしょう  
が、競争入札の厳しい予算  
の中で無理をして請け負っ  
た仕事の費用負担は下請け  
に流れて行き、生産者に及  
びます。景気が悪いと言え  
ばそれまでですが、その繰  
り返しの中で植木の生産が  
少なくなり、協会会員の減  
少も歯止めが掛かりませ  
ん。かと言って残った業者  
が潤う状況でも無い様に感  
じます。これでは後継者が  
育たないのも仕方ない事な  
のかも知れません。あまり

供給可能量調査委員会  
委員長  
鵜飼 幸治  
(柳鵜飼農園・三重県)

二年間、この委員会を経  
験させて頂いたとき、色々と  
課題や問題点が改めて見え  
て来ました。

一つには路地物の樹木の  
生産が高木だけでなく、  
低木も減少している点で  
す。低木はコンテナ栽培に  
生産方法が切り替わり、供  
給体制が継続出来ている商  
品もありますが、建設物  
価、積算資料のデータを見  
ても調達難易度の高い樹種  
が多く、アセビ、寒椿、ツ  
ツジ類等々、ポリウムを  
求められる路地生産物や、  
サザンカ、キンモクセイ、  
カイズカイブキ等の垣根材  
も年度末になると不足しが  
ちな樹種と言えます。高木  
でも同じ様に定番のシラカ  
シを始め、クスノキ、タブ  
ノキ、クロガネモチ、マテ  
バシイ、タイサンボク等、  
数本の注文に対しても調達  
に苦慮する状況です。これ  
は言うまでもありません  
が、バブル期に比べ、生産  
者の減少、産地によっては  
半分どころか3分の1〜4  
分の1に減ってしまった産  
地もある様です。

この原因はいくつかあ  
ると思うのですが、植木の  
生産に魅力が無くなってし  
まっていると言う事に尽き  
ます。公共工事の大幅な減  
少、3Kという業務体系の  
中、物価の上昇に比べ販売  
価格が過去のままであり、  
農家としての生業が年々厳  
しくなっており、後継者の  
育成が進まず、離農や植木  
以外の作物に切り替える農  
家が多くなっているのが現  
状です。

ネガティブな話をしても仕方ありませんが・・・この委員会は協会の中でも調査会との接点があり、植木材料の価格調整と



地域性植物適用委員会 委員長 国忠 征美 (タローパルグリーン・クニタダ・岡山県)

地域性植物適用委員会の国忠征美です。地域性植物は、平成10年、徳島県剣山国定公園内に於いて、『道路路面の保

ではないかと考えます。今期のメンバーと共にこの委員会を軸に植木の供給を増やす事が出来るか、どうすればこの業界に携わる方々にとって後世に繋げる緑化業界とする事が出来るかを話し合っており、たいと思っています。

を行って供給体制を確保している状況にある。また、生物多様性の保全や遺伝子確保のため各地において地域性植物への関心が非常に高まっており、愛知県下や兵庫県における施工工事における使用が検討されるなど、各地にその動きが広まってきている。

委員会では、地域性植物に関し、行政庁、コンサルタント、施工業者、苗木生産者などによる合同研修会を実施し、対外的活動が出来るシステムにしていきたいと考えている。

また、産地証明の徹底や植生調査時にはそれぞれの地域の貴重植物(絶滅危惧種)についても考慮し、その保護に努めていく必要がある。



植生調査委員会 委員長 葛西 伸彦 (樹クリーナー・前田・愛知県)

平素は植生調査委員会の活動にご理解とご協力をいただき、深く感謝しております。当委員会委員長を務めさせていただきます葛西伸彦です。

植生調査委員会の主な事業としては、「植生アドバイザー育成講座」と「植生管理士認定試験」があります。

次に「植生管理士認定試験」ですが、植生調査から得られたデータをもとに修復のためのプランニングまでを行うことができるプロの技術者を認定するもので、筆記試験と実技試験で構成されています。

和3年のカレンダー発行に向けての編集作業を始めております。カレンダーの制作で一番苦労するのが写真の収集です。良い写真が集まらない事には、植木協会らしい良い(美しい)カレンダーはできません。



環境緑化樹木識別検定実施委員会 学術委員会 委員長 川原田 邦彦 (確実園芸芸場・茨城県)

令和になり、初めての年があけました。環境緑化樹木識別実施委員会、学術委員会のご理解、ご協力を日頃よりいただきまして、誠にありがとうございました。

なかで、緑育とともに、外部での評価が著しく高い事業です。今年の総会でご講演していただいた湧井先生に委員長を当初から受けていただいていることもあり、

ですが、我々が青年部のころは、研修会はほとんどが植物の勉強会です。それが今は・・・若いうちによく勉強してほしいというのが我々委員の望みです。

まず「植生アドバイザー育成講座」は、毎年8月末〜9月初旬に3泊4日で群馬県川場村にて行われています。

また「植生管理士認定試験」は、毎年8月〜9月初旬に3泊4日で群馬県川場村にて行われています。

植生調査委員会の主な事業としては、「植生アドバイザー育成講座」と「植生管理士認定試験」があります。

最後に、委員会では、販売部数の減少に対する対策として協会外への販売を考察しました。その一環として先ず、東京農業大学の生協に問い合わせました。



カレンダー委員会 編集委員長 森川 雅広 (南森川園芸・千葉県)

カレンダー編集委員長を務めさせて頂いております。森川雅広と申します。

植木協会の会員の皆様には、毎年、日本植木協会のカレンダーを、注文頂き方々が多く受講するように、日本植木協会において一定の役割を担っています。

日本植木協会のカレンダーは、令和2年の発行分で18年目となりました。販売を始めた当初の発行部数を調べると平成14年16000部、平成15年14000部、平成16年23年頃まで15000部前後で推移してまいりました。

地域性植物は、施工箇所によりまちまちであり、植

識別に関しましては、協会

必要不可欠のものです。

講習会は東京と地方で各

留めて挑戦してください。

御礼申し上げます。

直結しますが、編集委員の

に、ご理解とご協力をお願いします。



三角・四角布 根巻ロール 麻縄 しゆる縄 除草剤

ASCOT logo and product information: 緑のこと、もっと伝えたい. 低価格でお客様のご要望に応えます! 用途、環境に応じた多様なサイズ展開! 耐候性に優れた高級素材を使用!

早瀬工業株式会社 HAKK logo and contact information: 〒708-0841 岡山県津山市川崎540 TEL 0868-26-1166 FAX 0868-26-3991

# 特集 ソテツの害虫 クロマダラソテツシジミ

株式会社 アスコット  
若林芳樹

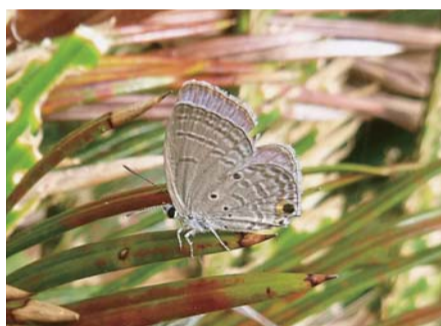
2020年(令和2年)1月9日の東京新聞の記事に『熱帯のチョウ 関東に』という見出しで、クロマダラソテツシジミという翅を広げた大きさが3cmほどの小さなシジミチョウについての記事が掲載されました。この記事は『地球異変 すぐそばの温暖化』というシリーズの6回目の記事でした。地球温暖化で身近に起きている出来事を取り上げて紹介しているもので、熱帯原産の蝶が神奈川県三浦半島で目撃されているという情報を基に確認に向いた記事です。結果として蝶は見つからず、葉の食痕もこの蝶の幼虫によるものではないとのことでした。

今回紹介されている蝶は、名前にソテツの名前が入っているように、幼虫はソテツを唯一の食草としており、特に若い柔らかい葉を食べ、硬くなった古い葉は食べません。幼虫の食害により伸び始めたばかりの若い葉の先端や葉縁が茶褐色に枯れて見苦しい状態となり、発生が多い場合は葉軸だけとなってしまふほどです。

国内でその発生が初めて確認された沖縄本島では、その被害が多くみられ、私が8月に訪れた時には、幹の先端についた若い葉が茶褐色になった姿が目立ち、その周りを雌の蝶が飛び回っていました。

ソテツを食害するシジミチョウが国内に侵入しており、本土でも確認されたという情報は、以前から報道等で知ってはいましたが、沖縄での現状を知らず、ソテツの枯れた葉に止まっているシジミチョウを撮影し、戻ってから調べてみたところ、それがクロマダラソテツシジミであることがわかりました(写真参照)。

本土での偶発的な発生では、大きな問題となることは少ないようですが、卵から成虫になるまでに要する期間が気温30℃では12日間という報告もあり、極めて短い期間で連続して発生する可能性もあるので、連続的に加害を受けると枯死することもあるようです。



クロマダラソテツシジミ(成虫)

本種はインド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、中国、台湾などアジアの熱帯、亜熱帯地域に広く分布し、わが国では1992年(平成4年)に沖縄本島南部で迷蝶として飛来し2次発生していることが初めて確認されました。その後2007年(平成19年)や2008年(平成20年)には大阪や京都でも確認されるようになり、今回の記事は神奈川県三浦半島でしたが、2009年(平成21年)に

は千葉県の房総半島南部の館山市で確認され、その分布を北に急激に広げているようです。

原産地が熱帯や亜熱帯であることから本土では越冬は困難で、冬を越した幼虫や蛹からの2次的な発生は今のところ確認されておらず、沖縄や南西諸島などに定着した蝶が台風などの強風に乗って飛来し、ソテツの新葉を食べて短い期間に何世代もの発生を繰り返す、一時的に分布を広げているようです。そのため年によって発生にむらがあり、大発生があった翌年にはほとんど発生が見られないようなこともあるようです。いずれにしろ、常緑のソテツの新葉が茶褐色に枯れ、葉軸のみとなっている姿は、著しく美観を損ねるので、成虫(蝶)の発生が確認された場合は、薬剤散布を行って速やかに駆除することが必要といえます。



幼虫の食害を受けたソテツの新葉

外国からの侵入害虫の被害では、古くは1905年(明治38年)長崎県で発見された松の天敵『マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリ』の関係が有名ですが、その後も1945年(昭和20年)には『アメリカシロヒトリ』、2001年(平成13年)には『プラタナスグンバイ』などが北米から侵入しています。最近の緑化樹木をめぐる害虫について見ても、2017年(平成29年)10月25日の緑化通信で紹介されたことからご存じの方も多いと思いますが、桜や桃、梅などを加害する『クビアカツヤカミキリ』が2012年(平成24年)に、ごく最近では季節外れのクスノキの大量落葉を引き起こすカメムシの仲間の『クスベニヒラタカスカメ』が2015年(平成27年)に、いずれも中国からの侵入が確認されています。

外国からの害虫の侵入は、発生を抑える天敵が国内にいないことが多いため、一度定着すると爆発的な発生となり、被害が甚大となる場合が多いので注意が必要です。

交通や流通のグローバル化で、外国からの害虫の侵入を防ぐことは困難で、また、これまでは侵入しても越冬できなかった害虫が温暖化で定着が可能になるなどの状況を考えると、小さな変化も見逃さず対処していくことがますます望まれるのではないのでしょうか。

以上

### 参考資料

4. クロマダラソテツシジミ・沖縄県

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin>shinrin>keiei>documents>

## 連載「里山植物と景観」

# 第4回 里山の雑木林

東京農業大学名誉教授 中村幸人



### ◆プロフィール 中村 幸人(なかむら ゆきと)

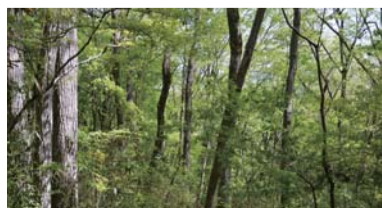
1952(昭和27)年3月 東京農業大学名誉教授(博士 理学)  
専門: 植生学、植物地理学、景観生態学  
神奈川県鳥獣総合対策協議会委員、神奈川県公共事業評価審査会委員、国際植生学会群集命名規約委員会委員 他  
横浜国立大学助手、作新学院大学教授を経て平成14年より東京農業大学教授

雑木林といえば国木田独歩の「武蔵野」に出てくる雑木林が有名ですが、たまたまの奥深さは人々の生活に密着しているからこそ感性の豊かさを感じ取れるという、人と自然の在り様が表現されている作品です。私たちが、今、雑木林を感じる郷愁は祖先から受け継いだ記憶にあるのかもしれませんが、暮らしに必要であった薪や炭、自然薯やワラビ、ゼンマイ、アケビなどの山菜、野鳥のさえずりや心をときめかせる虫たち、たくさんの自然の恩恵をもたらしてくれました。しかし、残念ながら今、雑木林は私たちの周りから消えていこうとしています。薪や炭の代わりに電気やガス、野菜や果物はスーパーで手に入ります。鳥の鳴き声や虫たちは知らず知らずのうちに遠ざかっていきました。

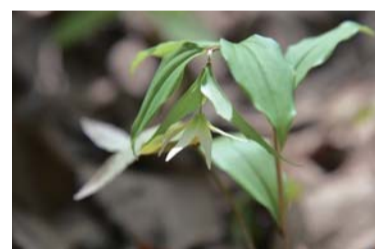
武蔵野を含め、関東地方に広がるコナラ、クヌギ、クリなどの優占する夏緑広葉樹林は株立ち、萌芽する樹高8~20mほどの二次林です。私たちの身近にあり、田園景観を形作る重要な要素の一つです。都市化により面積を今も狭めています。質的にも大分変わってしまいました。戦後、放置が続いたために遷移が進み、アズマネザサが繁茂してそれまでの豊かな林床植物を覆いつくし、さらに鳥散布によって持ち込まれたアオキ、ヒサカキ、ヤツデなどの常緑広葉樹が侵入して本来の自然林であるスタジイやシラカシなどの常緑広葉樹林に戻りつつあるのです。

雑木林は薪や炭を取るための薪炭林として20~25年毎に伐採されます。さらに早春の落ち葉掻きは有機堆肥作りに欠かせない作業でした。手の入った雑木林には70種ほどの豊かな植物相が見られます。人の手が入ることによってノガリヤス、ツリガネニンジン、ミツバツチグリなどの草原性の植物、アケビ、ハンショウヅル、ウツギなどの林縁性の植物、もちろん森林性の植物もあるのですが、夏緑樹林のウワミズザクラ、ツリバナ、ハナイカダなどと、本来の常緑広葉樹林のシラカシ、アオキ、テイカカズラなどが混生して賑やかな林相となります。とくに林床には四季折々に多年生草本類が花を咲かせ、実を結びます。

早春を彩るのはホタルカズラの明るい紫とフデリンドウの清楚な紫色、キジムシロの黄色、ヒトリシズカの白い小花に始まり、ヒカゲスゲ、ケスゲが目立たない花、



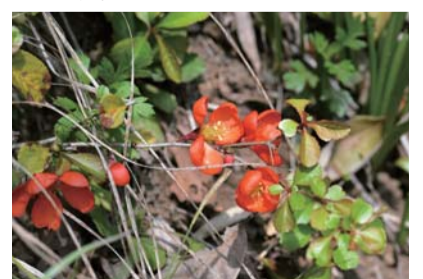
クリ-コナラの早春の雑木林(神奈川県相模原市緑区)



雑木林の林床に咲くチゴユリ(神奈川県相模原市緑区)

ハウチャクソウの薄い黄みどりがかかった色、低木もウグイスカグラのピンク色、コゴメウツギのクリームの花が咲きだします。また、ちょっと乾燥した雑木林にはツツジ類の花が目立ちます。東日本ではヤマツツジのオレンジの花が目立ちますが、関西のほうへ行くとモチツツジの紫の花が見られるようになります。夏の雑木林の林床にはヤマユリ、シラヤマギク、オオバギボウシなどの白い花が目立ちます。ヒヨドリバナ、オトコエシも白、小さいけどハエドクソウの花も白と言って良いでしょう。夏から秋に季節が進むとアキノタムラソウ、リンドウの紫色、ヌスビトハギやフジカンゾウの薄いピンク色、アキノキリンソウの黄色、リュウノウギク、シロヨメナの白色などが楽しめます。このように夏緑樹林であるがゆえに四季の変化が明瞭で、早春のコナラやクヌギの柔らかな芽吹きから、春のヤマザクラやオオシマザクラの花が咲きだし、初夏にはミズキ、マルバアオダモに移り変わっていきます。そして深緑の夏から秋の紅葉へと、里の秋が形作られていきます。

人は暮らしの糧を雑木林に求め、手を入れることによって四季の変化が織り成す郷愁を人の心に植え付けてきました。それは縄文時代の採集生活にまで遡ると考えています。クリをはじめ、どんぐりの多い森の豊かさが縄文人の暮らしを支え、高度な文化が花開いたのだと思います。しかし、文明開化といわれる明治時代以降、今日に至るわずかな時代の中で雑木林は急速に消えていきました。最大の理由はエネルギーが薪や炭から電気やガスに変わったことにあります。そして利用の無くなった雑木林はスギ・ヒノキの人工林、宅地などに姿を変えていきました。明治の頃の迅速測図をみると関東地方の多くはまだ、里山でした。横浜周辺ではすでに東海道線が敷かれていましたが、車窓からは雑木林の広がる素敵な里山が見えていたことでしょう。



早春に咲くクサボケ(神奈川県足柄上郡)

シリーズ ちょっと一息、ほっこり出来るような記事を募集しています。是非お送り下さい。



### 蜂〜始〇物語 ⑥(序章3) (はちみつはじまるものがたり) はちみつ

友友(蜂蜜処・井上園)

ミツバチは、どこかの植木屋の親方の様に花から花へと飛び回り甘い花蜜を集めると思っている人が多いが、花以外にもペットボトルのジュースとかアイスの容器や棒などからも糖分を集めます。アメリカでは、採蜜したところブルーの蜜が採れたので、周辺を調べるとチョコレート工場の廃棄物から運んだこと事がわかりました。虫といえども、作業効率を考へての行動…と関心するばかりです。



井上さん販売のはちみつ

「西洋ミツバチ」と「日本みつばち」では、蜂蜜の内容が少し違います。西洋は集蜜能力も高く集団で蜜を集めます。それに対して「日本みつばち」は、個々であちこちで蜜を集めるようです…。自然界には色々なリスクがあるので、それを分散・回避し、効率よく蜜を集めるより種の保存を優先されたようです。日本で

は人の関与が無ければ生き残れない家畜の「西洋ミツバチ」と昆虫界最強のオオスズメバチから群れを守る術を進化の過程で手に入れた野生種との違い…全く違うハチです。

「西洋ミツバチ」は、その季節や樹の開花時期で蜜を搾り、レンゲやトチ、そしてアカシアなどと単一の花の蜜が味わえるのですが…「日本みつばち」は、あれこれと色々な花の蜜を集めるし、量が少ないので1年に1回程度なので、様々な花蜜がブレンドされた「百花蜜」になります。

それ以上に違いは、「日本みつばち」は「プロポリス」を作りません…(プロポリスは巣内の雑菌の繁殖を抑えます) その代わりに細菌を抑える酵母を持っているので病気にかかりにくい…この酵母は「はちみつ」の中にも含まれています。ビタミンやミネラルも含有している天然のビタミン剤ともいえます。

日本の基準で、糖度78°以上のものが「はちみつ」と名乗れます…天然の「はちみつ」は時間が経つと固まる性質があります。花粉を核にしてブドウ糖がその回りに結晶体をつくるのです。ブドウ糖の割合が多いと速く結晶化し、細かく滑らかなクリームハニーになります。そのままトーストに塗るとこの上なく上品な食感で味わえます。

固まった「はちみつ」は、40°Cぐらいで湯煎して溶かしてください…高温で溶かすと貴重な成分が破壊された甘いの液体になってしまいます。

「日本みつばち」の「はちみつ」を手に入れることは、かなり難しいですが、もし機会があれば是非味わっててください…「日本みつばち」の「蜜罨(ハニートラップ)」に掛かると人生が変わります。そして、新しい物語ははじまります…。



(ソバの蜜と推測される) 黒いはちみつ  
写真: 佐藤建一

6回の連載も序章に過ぎなかった…驚愕の事実!(ええ〜) to be continued  
井上友二 植木処・井上園(神奈川県)



### 特集 竹はポピュラー、なれど不思議な植物 ⑩ 南米のチリで見たすごい「つる性の竹」 渡邊 政 俊

#### ◆プロフィール

1933年 富山県生まれ。京都外国語短期大学卒。1951~1991年京都大学農学部附属演習林文部技官。この間、故上田弘一郎京大名誉教授の研究を手伝う。1986年九州大学農学博士。1992~2002年(隔年)高知大学農学部非常勤講師。1993年以降林野庁の特用林産ビジョン検討委員会委員など竹・タケノコ関連事業委員を歴任。元国際協力機構(JICA)専門家(1970~72年タイ、1994、95、97年インドネシア、1996年チリ)。現在、竹文化振興協会専門員、京都市洛西竹林公園専門員。

20数年前(1996年)、国際協力機構(JICA)から南米のチリにキラという竹が生えており、これが造林地を覆い、造林出来ないのを、これを撲滅するよう指導してほしい旨の要請があった。しかし、筆者にとって竹を撲滅するプロジェクトは未経験であり、しかもチリ自生のキラ(*Chusquea quila* Kunth)という竹についてはまったく知識がなく、また情報の入手も困難な時代であった。

チリは南緯16度あたりから南極まで太平洋に沿って南北4,630km、また東西平均180kmの細長い国土で、チリの南部には南極ブナ天然林などの森林地帯が多い。ここに紹介するキラは南緯35度~41度のアンデス山脈西面の丘陵地帯に自生しており、南緯38度にあるマジエコ自然保護林でその生態について調査した(写真1)。

まず、そのキラの生き方を見て驚いた。何と、キラが天然林の皆伐跡地を完全に覆っていた(写真2)。その繁茂は珍しい「つる型」の生育型で林内に立ち入ることなど全く不可能な竹のジャングルであった(写真3)。

そこで、まず本種の生態を知らなければ何の対策も考えられないことから、同保護林内にある宿舎横の牧場に1本の個体を広げ、枝の出方などを詳細に調査した(写真4)。まず、最初に成竹した主稈から第1主枝、第2主枝と次々にほぼ同じ太さの主枝(写真5)を分枝し、その主枝から小枝が無数に分枝するという地上部の発達過程を確認した。そこで、これをつる型地上部のブランチング・シス

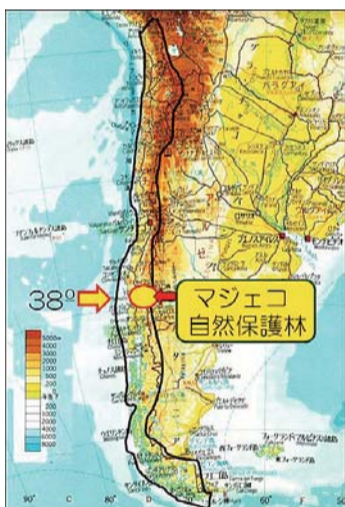


写真1. チリ国とマジエコ自然保護林の位置



写真2. 皆伐された樹木林を完全に覆いつくしたキラ



写真3. 一歩も立ち入ることができない猛烈なキラの繁茂



写真4. 宿舎横の牧場に広げられた1個体のキラ(矢印のところが主稈の根元)



写真5. 第1主枝が同じ太さの第2主枝を分枝する例



写真6. 主稈の各節間中央部(中空部が無い)



写真7. キラ地下部の構造



写真8. キラ地下部の観察とスケッチ(カウンタート、カルロス・カーレル氏)



写真9. プエルトモンテ港に山積みされた木材チップ

テムと命名①した。さらに、本種の稈にはまったく中空部が無いことにも驚かされた(写真6)。次に、地下部の構造をみると、仮軸(連軸)型で、その構造から相当強力な地下部を構成していることが推察された(写真7)。そこで、その地下部の繁殖型を詳細に調査したところ、稈が地下部の芽子から次々に連続して発生しており(写真8、その繁殖型は東南アジアに生育している熱帯性タケ類と同様であった。それにしても、南米の南緯38度のアンデス山系の麓でもこうした熱帯性タケ類の特徴を有する竹類が生育していることに驚かされた。

なお、このキラを撲滅する手段として現地ではある種の除草剤を使うような勧告を期待していたようであるが、筆者は環境への影響を配慮し、結論として「すべて、根元から切りなさい」と文書で単純に回答したことを思い出す。

加えて、チリの南極ブナ天然林が皆伐される原因は日本へ大量の木材チップを輸出するためとの話を耳にしたが、実際にプエルトモンテ港で巨大なチップの山々(写真9)を見た時にはさすがに複雑な感情を抱いたことを付記しておきたい。

引用文献 ①Watanabe, M. (1997) Bamboo Journal No.14: 1-14.